

海を照らす灯台のなかまたち

～能登埼灯台（のとさきとうだい）～

能登埼灯台は、リアス海岸特有の複雑な地形となっている宇和海の沿岸域を往来する船舶にとって重要な航路標識です。



1966年（昭和41年）、岬の突端から離れた「赤磐」という岩礁上に設置され、陸上部から巡回・点検に行くことが出来ないことから、灯台の北東側には船着場が設けられています。



【能登埼灯台】

灯台の色は、読者の皆様の大部分がイメージするとおり、「航路標識の塗色及び灯質の選定基準」という通達で、白色（防波堤灯台等の右舷標識（赤色）を除く）と決められています。

海上から陸上側を見ると、山々は意外にも緑には見えず、黒っぽく感じるのがその理由です。

ただし、背景や地理的条件で白色が見えづらい場合は、白色と赤色、または白色と黒色をそれぞれ交互に帯状に塗色できるとされていて、これは全国に80基弱ほどあります。

積雪の多い北海道、東北地方には、この帯状に塗色された灯台が比較的多く設置されており、西日本にも背景の大部分が空であるとか明るい色の崖地など、見えづらい場所で少数ながら存在していますが、第六管区（瀬戸内海・宇和海）管内では、唯一、能登埼灯台だけとなっています。

因みに、帯状塗色の灯台で、一番南にあるのは第十管区（南九州）の与論港灯台です。



【与論港灯台（鹿児島県）】



【白洲灯台（福岡県）】



【水ノ子島灯台（大分県）】



【石埼灯台（北海道）】

○能登埼灯台要項

所在地	愛媛県宇和島市（能登埼）
塗色・構造	白地に赤横帯3本塗、塔形（コンクリート造）
灯質	群せん白光 毎13秒に3せん光
光達距離	5.0海里（約9.3km）
高さ	地上から構造物の頂部まで 8.35m
	平均水面上から灯火まで 16.10m
	地上から灯火まで 8.30m